

せせらぎ



令和4年1月13日
富士市立原田小学校
学校だより 1月号

(令和3年度 重点目標) ○「いいね。」をたくさん見つけよう ○よくきいて よく考えよう

頼もしい原田っ子 今年も全力で支えています！

校長 若田 泰一

あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、コロナウイルス感染症という言葉が世に出始めてから、もうすぐ2年がたとうとしています。この間、様々な学校行事が中止や縮小され、行事を楽しみにしていた子どもたちは、がっかりすることが多かったかもしれません。

昨年のお話ですが、12月23日(木)に児童会の大きな行事である「原田っ子祭り」が行われました。2年前までは保護者をお客様として招いていましたが、今年はコロナ対策として、子どもたちだけの活動となりました。入り口で入場制限をしたり、いつも以上に換気に気を付けたりと、それぞれの教室で感染対策を行う中での実施でした。その中で、子どもたちの発想に驚いたことがあったので紹介します。毎年、来た客に対して、説明のセリフを口頭で伝える場面が多く見られたのですが、対面での会話を減らすため、タブレットPCを使って説明を読ませたり、タブレットに映し出された問題を解かせたりと、感染対策をしつつも、来た客に興味を持ってもらえる工夫が見られたことです。新しく導入されたタブレットPCの使い方は何



度も指導してきましたが、子どもたちの学びはそこに留まることなく、「タブレットPCをどう活用すれば、自分が思ったことが実現できるか？」という、より高度な考えをもてることが、何よりうれしかったです。

また、6年生はもうすぐ吉原第三中学校で一緒に学ぶ、吉永第一小学校の6年生と、リモートでつながり、互いの紹介をしたり、一緒に課題を解いたりしながら交流を深めています。これも子どもたちの発想を生かして計画が進められています。他校の6年生と直接会って会話することが難しい状況の中、(教育機器を活用すれば、瞬時に互いの顔が見られ、一緒に学習ができるかも)という発想が素晴らしいと思いました。この学習はこれからも続き、発信力や、共に学ぶ力を伸ばしています。



このように、コロナ禍での厳しい状況を逆手に取り、周りの環境を活用しながら新たな力を身につけようとするたくましさ、原田小学校の子どもたちにあるのではないかと感じています。子どもたちは未来を創る「宝」です。そんな素敵な子どもたち一人ひとりが、大切にされ、思う存分力を伸ばせるよう、職員一同全力で子どもたちを支えています。